

環境心理生理運営委員会 議事録 2014 年度 第 1 回

文責 辻村

- A. 【日 時】 2014 年 6 月 20 日 金曜日 (17:30～19:30)
- B. 【場 所】 建築会館 会議室
- C. 【出席者】 松原斎樹(主査)、合掌頭(幹事)、辻村壮平(幹事)、
秋田剛、大井尚行(skype 参加)、小島隆矢、土田義郎、
長野和雄、槇究、宗方淳
順不同・敬称略
- D. 【配布資料】 2013 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事録(案)
2014 年度 第 1 回環境心理生理運営委員会議事次第
2014 年度 第 1 回環境工学本委員会議事メモ
※2013 年度より、資料に関しては印刷物ではなく
オンラインストレージサービス機能を用いてデータで配布している。

E. 【報告事項】

1. 2013 年度 第 4 回環境心理生理運営委員会議事録(案)の確認

先回議事録(案)の確認を行った。記載内容について修正に関する指摘・意見が特になかったため、正式な議事録として承認された。

2. 2014 年度 第 1 回環境工学委員会の報告

第 1 回環境工学委員会には辻村が代理出席した。第 1 回環境工学委員会の内容に関して、特に本運営委員会に関連の深い事項について報告した。

■ 2013 年度調査研究委員会決算状況

各委員会で予算執行は 100%にするよう田辺委員長より報告があった。年が明けたら他分野の運営委員会で使いきれない予算を使用可能となる。

■ 2015 年度大会会場及び開催期間

【期 間】：2015 年 9 月 4 日 (金) ～9 月 6 日 (日)

【会 場】：東海大学湘南キャンパス

■ 2014 年度大会

○ 学術講演会・建築デザイン発表会発表申し込み題数：1299 題

○ 梗概の取り下げ申請が環境工学で 2 件の取り下げがあった。投稿規定に則っていないものや図中の文字が見えないものなどは失格扱いになる可能性が高くなる。形式の指定には十分に注意をすること。

○ OS 投稿数は環境工学分野で 47 編あった。

○ 大会期間中に委員会等の非公式行事を開催する場合、7 月 4 日 (金) までに事務局(一之瀬さん)に書類を提出しなければならない。

○ 若手優秀発表の名称

「○○年度日本建築学会大会 (○○) 学術講演会 ○○委員会 若手優秀発表」

○ 研究協議会：「都市再生における環境工学の役割」、9 月 13 日 (土)

○ 研究懇談会：「今後の環境工学を担う若手研究者—私の研究スタイル」、9 月 12 日 (金)

■ 東日本大震災関連

大震災合同調査報告書は全 11 編で、環境工学委員会は「建築編 8：建築設備・建築環境」を担当している。現在、DVD 版/本編の査読後修正原稿（A4 版 2 段組約 360 頁）が揃った状態であり、それらを出版原稿テンプレートへの形式に最終編集中である。冊子版は、本編から写真等を抜いたものを作成予定。

■ 第 27 回環境工学連合講演会開催報告

本年度は AIJ 主催であった。これまで 2 日にかけてであったが、本年度は 1 日で実施した。参加人数は講演者等 28 名、その他の参加者 163 名であった。

■ 「委員会等の運営に関する申し合わせ」の改訂

この申し合わせは、以前の委員会組織構成のもので、現状の組織構成に則していない内容となっており、本年度に改訂が検討されている。「委員会等の運営に関する申し合わせ」を運営委員会で熟読し、改訂に関する意見があれば、次回環境工学本委員会までに意見をまとめる。

■ 各運営委員会での大会若手優秀発表要綱（案）の作成

各運営委員会から環境工学委員会に候補者を推薦し、環境工学委員会がこれを承認するという流れで受賞者が決まる。現在、作成された各運営委員会の要綱（案）を見直し、HP などでも公開できるように運営委員会の審査基準を 6 月 30 日までに修正をしてまとめる（備考欄も公開される）。できる限り、「日本建築学会大会学術講演会環境工学部門 若手優秀発表」実施要綱（案）に基づいて作成することが望ましい。

■ 大賞候補業績推薦の内規（案）

「大賞候補者の推薦に関する申し合わせ」の内規を環境工学委員会で定めたい。これについて意見があれば各運営委員会で 6 月末までにまとめ、事務局に挙げる。

■ シンポ実施報告・実施計画

本運営委員会に関するシンポジウム及びチュートリアルが環境工学本委員会で全て承認された。

■ WG 設置申請

萌芽探索 WG が環境工学本委員会で承認された。

■ その他

小委員会開催中に skype 会議で映像が途切れるという不具合が生じた旨を伝え、事務局で対応すると回答を頂いた。

■ 次回の本委員会開催スケジュール

9 月 18 日（木）、11 月 28 日（金）、2015 年 2 月 17 日（火）

3. 各小委員会の活動報告

各小委員会主査が活動報告を行った。

○ 持続性社会の環境心理小委員会（主査：宗方委員）

第 1 回小委員会を開催し、11 月末開催予定のシンポジウムの企画について議論を行い、今後はその具体的な準備を進める。

○ 心理生理のフロンティア小委員会（主査：土田委員）

新たに萌芽探索 WG を設置し、本委員会で承認された。この WG では若手の研究者を

取り込む予定である。本年度はシンポジウムを開催する。

○ 環境心理小委員会（主査：楨委員）

環境心理チュートリアルを2014年9月26日に、研究手法WGのシンポジウムを2014年10月31日に開催する。かわいいWGも活発に活動しており、講演会や見学会、研究部会シンポジウム、デジタル機関誌の発刊などを行っている。

F. 【審議事項】

1. 環境工学本委員会からの宿題について

環境工学本委員会から、「委員会等の運営に関する申し合わせの改訂」、「大賞候補業績推薦の内規（案）の作成」、「大会若手優秀発表の実施要綱（案）の作成」に関して、運営委員会での意見をまとめるため、それぞれについて審議が行われた。

◎ 委員会等の運営に関する申し合わせの改訂に関する議論

本議題については、締め切りまでまだ時間があるため、今回議論はなされなかった。

◎ 大賞候補業績推薦の内規（案）に関する議論

これまで明確な内規がなかったため、特に「本委員会委員の投票により選考する」や「選考された候補者は原則として3年まで連続して推薦できる」といった点を定めた、と説明があった。これに対して「投票とすると母体の大きいところが毎年取るようになるのではないか」、「支部代表の委員の分野に左右される」との意見が挙がり、「方針に『分野を考慮する』、『分野の偏りがないように配慮』といった文言を入れる事も検討されたが、「大賞なのでそう多くの候補者が出る訳ではない」、「今までは『取れそうな人を推薦する』というスタンスであった」との意見もあり、最終的にこの文言は入れないこととなった。本議題については、後日、メール審議を行うこととし、意見がある場合には6月30日までにMLにて連絡することでまとまった。

◎ 大会若手優秀発表の実施要綱（案）の作成に関する議論

環境心理生理分野での実施要項のうち、選考対象について主に議論が行われた。選考対象の基準として、「初学者」であることを判断できる情報が入手できるものが望ましく（年齢であれば書類から判断できる）、また、それをどのように要項に記載するかを議論した。議論の過程では、「どういう人に賞を出したいか（学会としては学会への定着の促進が主な目的であり、奨学金の取得を本来は目的としてはいけないという意見が環境工学本委員会で説明されている）を考える事が大事ではないか」、「会員歴で区切るのはいかがか」「毎年エントリーできるのか、一度取ったら駄目なのか」との意見が出された。

議論の結果、本運営委員会では、要項の記載を「30歳未満、または大学院在籍中、および修了後2年以内の発表者」とすることとした。また、大学院の在籍／修了後年数の確認は、優秀発表に選ばれた者について在籍証明等により確認することとした。

選考対象以外については、「司会が審査するのは結果が偏るのではないか」、「来年以降は原稿提出時に本人がエントリーを希望するかどうかをチェックする項目を設けてはどうか」、「本委員会案にある『発表登録時』というのは曖昧・年によって違うため混乱するのではないか。例えば『今年度4月1日時点で』等の方がよいのではないか」等の意見が挙がった。

本議題に関しては、この内容で松原主査が要綱（案）をとりまとめ、必要であればML

にて審議を行い、6月30日までに事務局に提出することになっている。

2. 環境心理チュートリアルのU-stream 動画配信による参加のお願い

本年度より、環境心理チュートリアルはU-streamによる動画配信を行う予定であり、30名程度の視聴を見込んでいるため、研究室の学生等に周知して頂き、積極的に参加をお願いしたいと辻村より説明があった。

3. 運営委員会の予算について

本年度の本運営委員会予算について、各委員の旅費の満額は出せない状況となっている。旅費をどのように支出するかについて、議論を行った。12月頃あるいは年明けに、予算配分の再調整があり、年度内であれば遡って旅費を申請することも可能であるため、領収書等は保管して頂きたいと松原主査から説明があった。

4. 大会期間中の委員会開催について

本年度の大会期間中には、本運営委員会及び本運営委員会傘下の小委員会及びWGは開催しない予定であることが確認された。大会期間中に委員会等の非公式行事を開催する場合は、7月4日（金）までに事務局（一之瀬さん）に必要な書類を提出しなければならない。

G. 【次回の開催日程】

2014年9月18日の環境工学本委員会以降の日程で調整することとし、上記の審議事項についてはメール審議を継続することとした。

以上